

## 2021 年第 2 回 IEEE Japan Council 理事会議事録（案）

日 時：2021 年 7 月 16 日(金) 13:30～18:00

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口・オンライン併設

出席者：橋本 JC Chair、高村 JC Vice Chair、重松 JC Secretary、前原 JC Treasurer、  
大町仙台支部 Vice Chair、本間仙台支部 Secretary、菊池仙台支部 Treasurer、  
西山仙台支部 SAC Chair、  
小川札幌支部 Secretary/Treasurer、佐藤(源)仙台支部 Chair、佐藤(敏)信越支部  
Chair、中野東京支部 Chair、稲森東京支部 WIE Chair、片山名古屋支部 Chair、  
畑関西支部 Chair、松居関西支部 Vice Chair、上田四国支部 Chair、上原広島支  
部 Chair、庄山福岡支部 Chair、末松 COC Chair、大野 SAC Chair、桑原 AC  
Chair、  
尾上 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer、白川 HC Chair、  
奥村 LRSC 委員、佐藤(高)MD Coordinator、山田 YP Coordinator、高野 LM  
Coordinator、鈴木(麻)EA Coordinator 兼 IPC Secretary、野田 WIE Coordinator、  
福田 IEEE 2021 Past President、小菅 2020 IEEE Technical Activities Past Vice  
President、  
南 MGAARC Past Chair、鈴木(拓)MGA YPC Vice Chair、西原 R10 Past Director、  
矢野 R10 WIE Chair  
(順不同)  
オブザーバ：Japan Office 百武氏、Japan Office 梶川氏  
事務局、幹事会社事務担当

### 議題：

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| 1. 前回理事会議事録の確認（審議）        | 資料（1）   |
| 2. 2021 年 中間会計報告          | 資料（2）   |
| 3. 各支部 2021 年前回理事会以降の活動報告 | 資料（3）   |
| 3-1 札幌支部                  | 資料（3-1） |
| 3-2 仙台支部                  | 資料（3-2） |
| 3-3 信越支部                  | 資料（3-3） |
| 3-4 東京支部                  | 資料（3-4） |
| 3-5 名古屋支部                 | 資料（3-5） |
| 3-6 関西支部                  | 資料（3-6） |
| 3-7 四国支部                  | 資料（3-7） |
| 3-8 広島支部                  | 資料（3-8） |
| 3-9 福岡支部                  | 資料（3-9） |

- |                                   |          |
|-----------------------------------|----------|
| 4. 仙台支部の最近の活動ご紹介                  | 資料 (4)   |
| 5. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告             | 資料 (5)   |
| 5-1 Chapter Operations Committee  | 資料 (5-1) |
| 5-2 Student Activities Committee  | 資料 (5-2) |
| 5-3 Awards Committee              | 資料 (5-3) |
| 5-4 Industry Promotion Committee  | 資料 (5-4) |
| 6. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告        | 資料 (6)   |
| 6-1 Long Range Strategy Committee | 資料 (6-1) |
| 6-2 History Committee             | 資料 (7-2) |
| 7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告       | 資料 (7)   |
| 7-1 MD                            | 資料 (7-1) |
| 7-2 YP                            | 資料 (7-2) |
| 7-3 LMAG(LM)                      | 資料 (7-3) |
| 7-4 EA                            | 資料 (7-4) |
| 7-5 WIE                           | 資料 (7-5) |
| 8. その他                            | 資料 (8)   |
| 8-1 R10 報告                        | 資料 (8-1) |
| 8-2 「議論」2023年支部設立25周年等に関して        | 資料 (8-2) |
| 8-3 MGAARC 関連のトピックス               | 資料 (8-3) |
| [参考] IEEE Japan Council メール審議記録   |          |
| [参考] Region 10 からのメール連絡一覧         |          |

議事：

0. JC Chair ご挨拶

JC Chair から開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】

資料 (1)

JC Secretary から、前回理事会 (2021 年 3 月開催) の議事録について説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

2. 2021 年 中間会計報告

資料 (2)

JC Treasurer から、説明があった。

7/7 時点での中間会計報告。各支部からの拠出金がほぼ出揃い、収入として入っている。ぜひ今後できる限り、計画通りに進めていただきたい。

3. 各支部 2021 年前回理事会以降の活動報告 (3)

3-1 札幌支部

資料 (3-1)

札幌支部 Secretary/Treasurer から、説明があった。

主催事業では 2 件の授賞/表彰を実施。会員数増強のための施策として Student Member に対する奨励事業 (2 事業)、各種講演会の主催・共催・協賛をおこなった。MAW に関しては、10/30 に IEEE Metro Area Workshop 2021 in Sapporo、翌 10/31 に Japan SYWL Workshop、札幌支部 LMAG 設立イベントが開催予定となっている。シニア昇格メダルに関しては、10 月に授与予定としている。

3-2 仙台支部

資料 (3-2)

仙台支部 Chair から、説明があった。

年次総会、および主催講演会での新 Fellow 講演会を開催した。各 Affinity Group は活発に活動しており、WIE については 5/29 にオンラインで仙台 WIE 設立 4 周年イベントを開催。LMAG についても、5/10 にオンライン講演会を開催。YP については特色がある活動を行っており、5/22 に若手の研究者を対象として Android Studio の勉強会を開催。メンバーシップアップグレードの推進については、Senior Member へ昇格した方への IEEE Japan Medal の贈呈を 4 月に実施した。

3-3 信越支部

資料 (3-3)

信越支部 Chair から、説明があった。

IEEE Session の開催および学生表彰として、IEEE Session、Student Branch Session、Student Branch Lunch Meeting を 9/25 にオンラインにて開催予定。10 月には電気学会・東京支部新潟支所大会において、併設して IEEE ポスターセッションを開催予定。

WIEについては、WIE 合同役員会等の複数のイベントに Tokyo/Shin-etsu WIE Liaison が参加した。

### 3-4 東京支部

資料 (3-4)

東京支部 Chair から、説明があった。

MD 関係では、2020 年の Senior Member 昇格者数が 41 名。Senior Member 昇格記念メダル並びに会員年数に合わせたピンバッジの発送を完了した。他支部よりピンバッジの製作の要請があった場合には東京支部と同用途に限ることを条件とし、使用してもらうことを決議した。Students Activities に関しては、6/4 JC SAC “SB Leadership Training Workshop 2021”に各大学 SB が参加、本年より“Industry Collaboration Session”が設けられ、インターンシップ 等が紹介された。LMAG については、6/11 に世界に 100 以上ある LMAG の中から、年に 1 件選ばれる荣誉ある“IEEE Life Members Affinity Group Achievement Award”に選出された。各企業の IEEE 会員について台帳管理をした上で、Member/Senior Member/Fellow になる人を把握していく活動を開始した。

続いて Past secretary から「会員加入周年記念ピンバッジの贈呈について」資料に沿って説明があった。東京支部の取り組みとして、2020 年度の会員加入年数に応じてピンバッジ (ピンバッジ) を配布した。今回は最初であり 41 年以上の方にも配布した。ほかの支部からも同様の施策への希望があり、同じ目的・同じ形式で実施する場合には、他の支部にも活用頂きたいということで東京支部の中で了解を得た。

次に、Senior Member に昇格された方に送るメダル贈呈の紹介があった。東京支部では 2020 年の新規昇格者は 41 名であり、メダルを送付した。メダル送付直後にメール等で声を頂き、アンケートも実施した。「非常に満足」と「ほぼ満足」が全員で不満の声はなかった。今後は Fellow の増強策とうまく結びつける連携も視野に入れて検討を進める必要がある。

### 3-5 名古屋支部

資料 (3-5)

名古屋支部 Chair から、説明があった。

名古屋支部国際会議研究発表賞について、オンライン授賞式を開催した。参加者を画面に一覧表示して記念撮影と位置付けて画面を保存したり、表彰状を画面に映して読み上げたり等、表彰式の雰囲気を出そうと努力をした。マイルストーンに関しては、昨年、東芝とデンソーの 2 社が受賞し、東芝については、実会場とオンラインを結ぶ形で表彰式を実施した。表彰式には Past President に出席頂き、名古屋支部からも参加して式典自体は実会場で実際にお渡しする形が実現した。

### 3-6 関西支部

資料 (3-6)

関西支部 Chair から、説明があった。

「博士のキャリアを語る会」について 9 月開催を目標に企画。現役の博士後期学生と OB の社会人に話をしてもらい、修士学生の博士課程進学とともに IEEE 活動への積極参加へつなげる狙い。「シニア会員の昇格講演会」については、10 月、11 月開催を目標に企画中である。昨年同様、Senior Member になることを促すワークショップで、Senior Member へのアップグレード方法の紹介と、Fellow 昇格者の講演を検討中。「マイルストーン事例講演会」については、今回企業会員獲得を目的としたイベントを企画中。

### 3-7 四国支部

資料 (3-7)

四国支部 Chair から、資料に沿って説明があった。

Technical Meeting については、「サイバーセキュリティシンポジウム道後 2021」に共催した。Membership Development は、Senior Member へのアップグレードを重点的にキャンペーン実施中。具体的には過去の四国支部役員に Senior Member への誘いをかけ昇格頂き、その方々にレビュアーになって頂き進めている。さらに 10 年以上在籍者に重点的に呼びかけを行っている。

### 3-8 広島支部

資料 (3-8)

広島支部 Chair から、説明があった。

広島支部の柱である学生シンポジウム HISS について、約 30 名の学生主体の実行委員会を組織し、準備中。教員は、下地を作ってうまく進むようにバックアップしている。広島大の田岡先生から学術的会議をどのように運営しているか具体的なプレゼンをして頂き、運営のポイントや論文をどう管理しているか具体的な進め方についてレクチャーを実施した。シンポジウムの中で W I E との連携強化も念頭に WIE 四国・福岡・広島支部賞を新設し授賞することを計画している。また、支部の国際化を以前から目指しており、その一環で広島支部が後援している ISCIT2021 において、学生シンポジウムにて優秀な成績を収めた研究を集めて、世界に発信していこうと取り組んでいる。

### 3-9 福岡支部

資料 (3-9)

福岡支部 Chair から、説明があった。

昨年度昇格された方へのシニア昇格メダルに関し、コロナの影響で郵送による贈呈となった。シニア昇格した方々と、メダル贈呈を実施した件は一般会員にも周知をしていく。受賞者の声は、支部の Web にも掲載し、Senior Member を目指そうという啓蒙を図っていく。

## 4. 仙台支部の最近の活動ご紹介

資料 (4)

仙台支部 Chair から、挨拶および活動紹介のプレゼンテーションがあった。

本日はこの理事会を仙台で開催することができて大変嬉しく思っている。本来はご参加の皆さんにもこの会場においで頂きたかったところであるが、この状況下やむを得ない。主要なメンバーには今日ここにお集まり頂けてなんとか開催できたのは支部としてもホッとしているところ。

仙台支部は 1998 年に発足し、会員数は 700 名程度で推移し急激な増減なく活動も維持できている。会員構成は、大学関係、大学院生が比較的多い。主要な活動として、講演会は総会に付随し「新 Fellow 記念講演会」を開催しており、こちらはその年の Fellow 昇格者の紹介が中心だが IEEE の賞を受賞した場合にも特別講演を実施している。総会とは別に秋に「特別講演会」を東日本大震災を契機に復興にどう貢献できるかをテーマに開催した。復興に関連する講演会から開始したが、最近はずしも震災に関わらない今後を見通すような特別講演会を開催している。学生の育成事業としては、電気情報系学生の国際性の育成として電気関係学会支部連合大会の場で、英語による予稿作成及び発表のセッションを実施しており、今年で 20 回目を迎える。Affinity Group に関して、Sendai WIE は 2017 年にキックオフし、周年イベントを開催するなど活発な活動をしている。LMAG については、2019 年設立され、中身の濃い深い講演会等を現役だけでなくシニア、若手と広くを対象とし実施をしている。YP は 2019 年設立された。東北の特性として、学生は多いが YP が対象とする卒業後の若手の研究者が少ない。大学の若手研究者はいるが企業の若手研究者は、東北地方仙台 Section から他の Section に移っていく傾向があり、YP の活動を通じて広く繋がる機会を提供できれば良いと期待している。Student Branch 活動に関しては、コロナウイルスの影響で対面できずにいるが、今後活発に活動できることを期待している。会員増強に関して、シニアメダルの授与など、総会の時に Fellow と同様に一般会員の方にも認識していただける機会を提供している。マイルストーンに関しては、仙台支部では 2 件が認定、2 件のプラークは東北大学キャンパス内に設置されている。プラークを通じて、学生や来客に IEEE マイルストーンの認識を伝えていきたい。最近のトピックとして、“The Organizational Supporting Friend of IEEE Member and Geographic Activities Award” を NTT 東日本が受賞。7/15(日本時間)、MGA Virtual Awards Ceremony が開催された。仙台支部 Treasurer が活動を強く支援している。

プレゼンテーション後に、以下の質疑があった。

JC Chair から、WIE の活動について、男性が WIE の Chair をして頂いていることは素晴らしいこと、役員にもう少し女性を入れて頂けると嬉しい、とのコメントがあった。

JC Secretary から、学生への取り組みについて質問があり、仙台支部 Chair から、国際会議に参加するのが学生会員に登録する非常に良い機会だが、そのチャンスが若干減

っている可能性はある。ただし発表の件数がないと自分の学位審査にも影響するので激減することはないと思う。大手の工場等は東北地方に結構あるが、研究機関としての活動がそれほど多くないので、IEEE の活動に対しての貢献が弱いと思う。本来、学生会員と若手に継続性があるのだが、東北地方の特性としてそこが切れている。外から来られる研究者の方が、仙台 Section にも貢献していただけるような仕組みを作りたいと思っている、と回答があった。

## 5. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

資料 (5)

### 5-1 Chapter Operations Committee

資料 (5-1)

COC Chair から、報告があった。

Award 登録数は今年度分で 52 件、そのうち新規案件が 4 件であり、ほとんどが昨年から継続案件となっている。オンライン申請については、今年度から Chapter 支援費と Award 登録の申請に活用しており、Excel 上での管理と比較すると利便性が向上した。COC 内部でのコミュニケーションも毎月オンライン会議で実施し、ほぼ 1 カ月以内の審査対応が可能となった。

Chapter 支援費の管理と審議及び Award 申請については、現在 JC の COC が実施しているが、本来は各支部で実施するべきと言われている。今後の案として、Award 登録は、多くの Chapter の組織が支部間ジョイントになっているため JC に残し、Chapter 支援費について支部に移行することとしたい。まずは今年下期に規模が大きく支部に COC のある東京支部から移行を相談していきたい。Award 登録および副賞(賞金)の取扱いについては、現状では JC の COC に提出を依頼しており、上限は JC COC のガイドラインに沿って定めているが、Chapter 支援費を支部に移行することによって上限管理は支部内での扱いへ変更することが可能となる。Chapter 支援費の支部移行後の副賞の取り扱いについては、Award 登録の段階では審査せず、Chapter 支援費申請の段階で賞金上限についても審査をする形式にしたい。

デジタルの日については、デジタルの日の付近に IEEE GCCE2021(京都開催)が行われる予定となっており、関連行事を JC 執行部と連携を組みながら進めている。

これに対し、以下の質問および意見があった。

JC Chair から、JC COC の予算を各セクションに移し替えることは、JC COC 内での審議となるのか質問があった。これに対し COC Chair から JC COC の職掌が変更となるため、次回の JC 理事会で案を出したい。役員が変わるタイミングでの移行は難しいと考えているため、今年末に移行を実現したいと説明があった。

LRSC 委員から、Chapter 支援費の支部移行は決定事項であるかとの質問があり、COC Chair から、どの程度まで移行するかは議論を重ねていくが、将来的に移行する必要があることは同意を頂いている。東京支部への Chapter 支援費の移行が一番有効だと思わ

れるため、今後案として示して議論していきたいと回答があった。

## 5-2 Student Activities Committee

資料 (5-2)

SAC Chair から、説明があった。

SBLTW に関し、6/4 にオンラインで開催した。LTW セッションでは、IEEE 会員数の少ないところでは、Probation と Dissolution が重要となることなど説明等を行った。インダストリーコラボレーションセッションについては、今回は 3 企業にて実施し、インターンシップの説明を学生に対して行った。参加者は Zoom ログイン数 70 名、うちアンケート回答者数は 49 名であった。

マンガプロットコンテストの実施に関しては、9 月末まで応募を受け付けている。よい作品はマンガ化し Web 公開を予定。骨子を丸善雄松堂に作成してもらい進めてゆく。

Section Student Representative(SSR)の選出に関して R10 から依頼があった。SSR は多くの支部で決めておらず、各支部に依頼したところ、bylaws の変更が必要ではないかとの提起があった。MGA のオペレーションマニュアルによると、SSR は理事会メンバーとして参加し、Voting rights を持つことを推奨するとされている。これらを踏まえ、JC SAC としては、学生のまとめ役としての SRR の選出を各支部に依頼したい。将来は、SSR がオブザーバとして理事会に参加したり、推奨されているように Voting rights を持ったりすることもあり得ると思う。各支部でも議論いただきたい。

以上に対し、以下のコメントおよび意見があった。

JC Secretary から、マンガプロットコンテストに関し、丸善雄松堂が作成した骨子に記載された流れで進めてゆくことに関し異議がないかの確認が行われた。結果、反対意見がなく、骨子に沿って進めてゆくことに決定した。

名古屋支部 Chair から、SSR 選出に関して、以下の意見があった。

- ・オペレーションマニュアルによると、SSR が理事会へ出席した際の Voting rights は推奨であり、必須ではない。Voting rights を与えなければ bylaws に記載しなくてもよいとは読めない。
- ・セクションの中で複数の SB を持っている場合、SB Chair から SSR は選べない。
- ・名古屋支部では、学生間、大学間の引継ぎなども考慮しながら SSR 選出を進めている。これらのコメントに対し、SAC Chair から、本件について再検討をしていくと回答があった。

## 5-3 Awards Committee

資料 (5-3)

AC Chair から、説明があった。

IEEE 本部の Awards 委員の見直しを行い、10 月に JC AC の会合開催に向けて準備をしている段階である。5 月に IEEE のメダル候補を推薦する際の支援について問い合

わせがジャパンオフィス経由で JC AC 宛に届いた。メダルや Award の支援は支部が任務を担っているため、東京支部に対応を依頼することで話を進めたが、その後取り下げの連絡があった。今後同様な案件については支部で対応していくことし、10月の JC AC で周知する予定。2022年の Technical Field Awards の日本からの受賞者については、1件1名となった。

#### 5-4 Industry Promotion Committee

資料 (5-4)

IPC Secretary から、説明があった。

今年札幌で開催される MAW2021 の準備状況確認を行ったほか、6/4 開催の SBLTW に見学参加をし、内容を IPC 参加企業に報告した。教育コンテンツについては、Industry Engagement Committee のワーキンググループメンバーである JC Chair から JC IPC に対して教育コンテンツに関する情報共有等が行われた。

これに対し、JC Chair から、IEEE は EA でも IPC でも同じような活動をおこなっているの、活動を整理してから IEC に問い合わせていくとコメントがあった。

Past Secretary から、IPC 参加企業に対して SBLTW でのインダストリーコラボレーションセッション活動報告をしていただき、インターンシップ応募状況や関連各社の本イベントの捉え方等も IPC 参加企業メンバーと共有するとよいのではないかとコメントがあった。

#### 6. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

資料 (6)

##### 6-1 Long Range Strategy Committee

資料 (7-1)

LRSC Chair から、報告があった。

Fellow 希望者に向けてのウェビナーを 12 月のみ開催予定であったが 10 月にも開催をすることとした。Fellow & Senior Member 昇格者増強に向け、2010 年以降に Fellow に昇格した方に向けて配信したアンケート結果について紹介があった。(回答者：37 名 / 135 名)

Fellow になって良かった点や、応募の動機等、Fellow への応募に関して参考になる情報が多く集まったので、Senior Member から Fellow への応募は今後も積極的に薦めていきたい。

以上の報告に対し、Past President から、問題はインダストリーの方がなかなか Fellow になれないということ。ぜひ積極的に申請を出して頂きたいとコメントがあった。

##### 6-2 History Committee

資料 (6-2)

HC Chair から、報告があった。

マイルストーンの承認状況については、デンソーの QR コードに係るマイルストーン贈呈式を調整中である。マイルストーン式典の出席者の中で IEEE 会員でない人にはこ

の機会に IEEE に入会してもらうよう呼び掛けている。マイルストーン受賞状況は、日本全体で 40 件となっている。マイルストーンの発掘および認定まで運んでいくことを大きな任務と考えている。

## 7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

資料 (7)

### 7-1 MD

資料 (7-1)

MD Coordinator から、報告があった。

Senior Member 昇格記念メダルの授与に関しては、送付状況とメダルの感想を次回の JC 理事会で共有予定となっている。各支部で組織的に Senior Member に昇格する場合は、申請時にどこの Section からのノミネーションか明記してほしい。会員更新のリマインドメールを送付したが、メールを送ることによって退会したいという問い合わせが届いた。基本的には会員を継続してほしいが、トラブルが起きないように MDC として自動更新の推奨のメール内容の見直しを考えていきたい。

以上の報告に対し、Past Secretary から、メダル納期は 3 ヶ月だが、製作費用を今年度の予算とするのか来年度とするのかに影響するため、数量の決定や発注等のスケジュールをどのように決めるのか、また関西支部に関しては次回以降 JC のメダルを使うことは最終決定なのか質問があった。

JC Secretary から、製作予定枚数は予定通り次回の JC 理事会で報告を予定し、Senior Member 昇格者の人数を明らかにすることで支部も申請がしやすいとコメントがあった。

MD Coordinator から、メダルの発注スケジュールに関しては、過去の Senior Member 昇格者の人数を見て投機的に注文をする。また、関西支部のメダルに関しては次回以降 JC のメダルを使用することと認識をしていると回答があった。

### 7-2 YP

資料 (7-2)

YP Coordinator から、報告があった。

現在は、YP Coordinator として各 Section での活動状況の把握、情報共有を行っている。イベント自体は各 Section の Chair や Vice Chair を招いているため情報共有がしやすい環境を構築し、有効活用している。R10 の YP イベントに参加をし、各 Section の YP Chair から YP のあるべき姿についての議論等をおこなった。日本はスポンサーを付けて活動することが少し弱い印象を持った。Japan SYWL Workshop は大きなイベントになることが予測されているので、会員でない人達もどのような形で参加をしてもらえるか等を検討し、Industry の方ともコラボレーションして、より大きく、楽しいイベントにしていきたい。

SAC Chair から、会員外の Japan SYWL Workshop への参加について、旅費は IEEE 会員でないと支給は難しいが、自由に参加する分には構わない。オンラインであればフリーで参加できるため積極的に誘っていけばよいとコメントがあった。

MGAYPC Vice Chair から、スポンサーシップは発展途上国が多く取っている一方で、先進国の中で取っているのはサンフランシスコ支部等が挙げられる。先進国でスポンサーシップを取っているイベントのプロポーザルを確認していくと、社会を変えようという強い意志を持った内容となっているため、Section や JC レベルで高い志を持った人が提案していけばおのずと企業も付くと思われるコメントがあった。

IPC Secretary から、Japan SYWL Workshop に Industry がコラボレーションする件は、企業にとってもメリットが無いと出席し辛く、受動的な姿勢では企業からのサポートは来ないので、実行委員の方で具体的な方針を議論してほしいと意見があった。

### 7-3 LMAG(LM)

資料 (7-3)

LM Coordinator から、報告があった。

札幌支部に新しく LMAG を設立することが決まった。LMAG が無い支部の Life Member に LMAG 講演会に出席してもらい、活動を楽しんでもらうことで効果を期待している。R10 においては、福岡や広島支部に設立すべきという意見がある。Life Member の中で Senior Member への昇格をする運動も企画されている。Award 関係について、3つの受賞があった。まず“2021 Life Members Affinity Group Achievement Award”であるが、118あるLMAGから唯一選ばれる名誉あるものである。HPの改善やLMAG 東京が10周年を迎えたことが奏功したと思われる。次の“IEEE Life Member Shirt Award”は、イベントを6件以上開催したことに対して与えられた。3件目として前LMAG Chairに対する感謝状が、IEEE本部より初めて送られた。

JC Secretary から、Achievement Award 受賞に対して祝意が述べられた。

### 7-4 EA

資料 (7-4)

EA Coordinator から、報告があった。

前回の理事会(2021年3月開催)にて承認があったJC EA Groupのメンバーを現在構築中で、経験が豊富で様々な観点から意見を頂けるメンバーに参画頂いている。6/30に支部のEA Chairとの情報共有会をおこない、EA活動の方針やイベントの開催予定等の共有を行った。JCとしてどのようなサポートが可能かの議論を開始したいと考えており、今後の資産としてEA活動関連のイベントを集約したリストの作成を進めていきたい。

### 7-5 WIE

資料 (7-5)

WIE Coordinator から、報告があった。

JC WIEで行っていた「女性が拓く未来のテクノロジーWIE20XX」に関して今後は全支部共催で続けていくことが決定した。今年度に関しては東京支部WIEが主担当で、他支部が共催で実施予定。女子生徒への理工分野の進路選択を促進する内閣府「リコチャ

レ」事業について、応援団体を JC WIE で登録していたが、JC WIE 解体に伴い、今後 IEEE JC と国内の全支部 WIE にて登録することとした。

## 8. その他

資料 (8)

### 8-1 R10 報告

資料 (8-1)

R10 Past Director から、報告があった。2020 年はコロナウイルスの影響もあり、IEEE 全体で -6%、R10 で -1.4%、日本は -3%の会員減少となった。イベント関係では、関係者の尽力もあり TENCON2020 を無事に開催できた。今年も引き続きオンライン形式が多くなることが想定されるが、11 月の BoD はハイブリッド形式で開催できる見込みである。

2023-2024 R10 Director-Elect 選挙に向けて、活動が開始した。7/5 にアナウンスを出しており、選挙には日本からも候補者を出せるので、是非有力候補のノミネートをお願いしたい。

### 8-2 「議論」2023 年支部設立 25 周年等に関して

資料 (8-2)

(議事進行の都合上、本項は本理事会最後に報告・討議を実施した)

関西支部 Vice Chair から、説明があった。

4 年前の理事会より議論し続けてきた支部設立 25 周年イベントに関し、実施する場合はどのような形式で行うのがいいのか、企画内容や支部の費用負担はどうあるべきか、議論をしていきたい。関西支部では、今年度から費用の積み立てを行う予定である。

これに対し、JC Secretary から、記念イベントは強制ではなく、開催するか否かは各支部の希望に委ねることとなる。複数の支部が 25 周年を迎えるので、ジョイントを希望する場合を除いて開催時期が重複しないよう調整する必要がある。イベント企画は基本的に各支部が担当し、JC は予算の援助や、適切な時期にタスクフォースを立ち上げ、議論に加わっていくことになると考えている。まずは各支部から開催希望があるか否かの判断をお願いしたい。開催する場合、基本的な考えとして周年を迎える年、あるいは翌年に実施するのがベストであるが、2024 年になると JC が 25 周年を迎えるため、JC25 周年は全支部のイベントが終わったあとに実施すべきである。2023 年は幹事会社が交代する年でもあるため新旧 Secretary が揃う LRSC であればスムーズな情報共有、議論ができるのではないかと補足説明があった。

### 8-3 MGAARC 関連のトピックス

資料 (8-3)

MGAARC Past Chair から、報告があった。

6 月に今年前半の MGA Award 受賞者が決まった。詳細は MGA ニュースに掲載されている。IEEE MGA Virtual Award Ceremony がオンラインで開催され、このセレモニーにおいても仙台支部 Treasurer が Award 受賞についてプレゼンテーションされている。

た。こちらは IEEE TV で今後オンデマンドが放映されるので、是非一度ご覧いただきたい。

別記

参考：<https://ieeetv.ieee.org/video/ieee-mga-awards-ceremony>

【参考】IEEE Japan Council メール審議記録

【参考】Region10からのメール連絡一覧

以上